

一中だより

令和8年1月8日

第9号



作成者：荒川区立第一中学校長 小柴 憲一

あの人は「いい人だ」「すごい人だ」と長所の方に目を向けられる人になってほしい

1 物事を肯定的にみる人と否定的にみる人

人には、物事を肯定的にみる人と、否定的にみる人がいます。特に対人関係においては顕著に現れます。どちらの方が人柄として好まれるかといえば前者になるでしょう。例として、本校の子どもたちからも聞こえてくるような対照的な見方を以下に示します。

	肯定的な見方	否定的な見方
1	あの人はいろいろ私たちに言ってくるけど、自分で言ったことは必ずやりとげられます。	あの人は偉そうにしている、話を聞いているとイライラしてきます。
2	あの人は、突然、今までの話の流れと違うことを言ってきたりすることがあるけど、たぶん思いついたことをすぐに言いたくなる特徴があると思うんです。	あの人は、みんなが盛り上がり話しているときに、全然違うことを言ってきて「しらー」とさせるっていうか、全然空気が読めない人なんです。
3	あの人は頭がいいだけじゃなくて、私たちのことを、いろいろと助けてくれるんです。	あの人は勉強ができることを自慢しているのか、私たちにおせっかいなんです。
4	あの人はきっと恥ずかしがりやなんだと思うんです。でも、聞いたことには答えてくれるので、もしかすると話しかけられるのを待っているのかもしれない。	あの人は聞いたことには答えてくれるけど、それ以外は近くでしゃべっていても、全く無視しているし、そもそも何を考えているか分からない人です。

友達のいいところに目を向けさせるように指導することは、学校教育において当然取り組むべきことではありますが、最も一緒に長く生活しているご家庭の影響も大きいと思います。ご家庭で保護者の方が、職場の人・近所の人・子どもにとって近い存在である友達や教員のことなどや、外食した時の食事の味や宿泊した場所・受けたサービスのことなどについて、否定的な見方による会話を多くしていると、子どもの中にそのような価値観が根付いていき、子どもも同様な見方を物事を否定的に見ようとするようになっていくと言われます。

逆に、人に対して、また、いただく食事や受けたサービスなど、何事に対しても肯定的にとらえて「ありがたいね」と感謝しているご家庭の子どもには、物事を肯定的にとらえようとする価値観が身に付きやすいとも言われます。

私たち大人も、子どものいる前での言動には、注意しなければならないということだと思います。

2 物事を否定的にみる人は、ミスをしてしまったときに言い訳から始まる傾向がある

過去に担任をしていたときを振り返ると、いきなり私に結論の見えない「…を…して、…に行こうと思ったから…さんと会って…」など、何かの状況を説明してくる子どもがいました。何を言いたいのかなと思って聞いていると、結局は蛍光灯を割ってしまったということだったというようなことがあります。一方で、真っ先に、「ほうきの柄を折ってしまいました」という結果から報告してくれる子どももいました。

なんで、2つのタイプがいるのかなと思っていましたが、それを解くヒントになったのが、私が異動の関係で、区役所で勤務しているときの出来事でした。

採用から6年目の職員Aさんが、あるとき「課長！」と言って私のところに来たのです。私が「何ですか」と聞くと、Aさんご自身が抱えている業務の内容と現在が繁忙期であるという状況を話し始めたのです。私は、「業務分担の見直しについて課長に訴えに来たのかな」と思っていると、「…なので…という失敗をしてしまいました。」と地区内の園長・校長に迷惑をかけることになってしまったというミスを報告してきたのです。

私はAさんに、「そのことを報告するために、いろいろとあなたが大変だった状況を説明していたのですか」と聞くと、Aさんは「はい」と答えました。私はAさんに、「仕事では、悪いことほどすぐに報告すること、上司に報告するときはまず結論から報告することっていうことを言ってきましたよね」と言うと、Aさんは「課長には事情を

分かってほしかったので…」と言ってきました。私がAさんに「もしかして私が結論だけを聞いたあと、事情は聞かずいい印象をもたれなくなってしまうのではないかと心配したのですか」と聞くと、Aさんは「そうです」と答えました。

Aさんは、日ごろから「〇〇課はあれだけの人数がいて、やることも少ないから日中も暇にしているし退勤も早い」「同期の〇〇さんは、たいてい能力がないのに〇〇課だからやっていけている」「〇〇課の〇〇係長は係員に全部丸投げで自分は何もやらない。それでいて責任もとらない。」「〇〇課長は答弁が長いから議員さんに怒られて係員がやりにくくなる」など、批判することがとても多く、要は人を常に否定的にみている人でした。

そこで思いついたのは、人を否定的にみている人は、自分も否定的にみられると思っているのではないかということです。振り返ると、担任時代の先ほどの「理由や状況を先に説明してくる」子どもたちは、共通して人の文句や愚痴を言っていたり、おいしい給食なのに「ゆで方が固い」などの注文を言ったり、「トイレの掃除なんか掃除屋さんがやればいいのに」などの要求をするなど、物事に対して否定的に見てしまう子どもたちでした。一方、「結果から報告してくる」子どもたちは、友達の言動に対して寛容で、少し特徴的な言動をする友達に対しても、それをその子の個性と捉えて接したり、授業中ある友達の意見が全員から批判を受ける場面があったとしても、「そういう考え方があっていいと思う」とワークシートに書いたりする、いわゆる物事を肯定的にみる子どもたちでした。

物事を肯定的にみる人は、人を信じることができ、仮に失敗をしたとしても言い訳ばかりを言うことはしません。ぜひご家庭でも、日常生活で「料理してもらったものを『おいしいね』と言っていただく」「誰かに親切にしていたときには『ありがとうございます』と感謝する」「ホテル・レストランなどのサービスを提供してくれる場では、それを当たり前とは言わず『ありがたいことだね』と言う」「近所の人など知り合いの方について話をするとき『あの人は心配してくれて、いろいろと気にかけてくれるんだね』などの好意的な話をする」など、物事を肯定的に見る姿勢を示していくことが、言い訳ばかりを言わない気持ちのいい青年をつくりあげていくのではないのでしょうか。

人に対して、「あの人は『いい人だ』『すごい人だ』と長所の方に目を向けられる人柄が、結果的にその人のゆとりのある生活や幸せなど、ウェルビーイングの向上につながっていくと思います。

お知らせ

- 12月20日(土)に実施された「荒川なかまち通り商店会 クリスマスイベント」に、以下の子どもたちがボランティアに応募しました。

1年…柴田 麻畝、芳家 皐、伊藤 結心、岩村 海音、大角 悠真、小澤 武流、北川 粋、濱田 虎将、渡邊 萌衣

2年…青山 心優、安 書瑤、亀井 琴音

- 荒川区読書感想文コンクールにおいて、以下の子どもたちが応募した作品が優秀と認められ表彰されました。

1年…梅田 ゆうか 3年…関 碧乃、伊藤 心愛

- 「第38回あらかわ俳壇(小中学生の部)」において、以下の子どもが受賞しました。

入選 2年 羽佐田 依吹 「せみがなく 夏限定の 合唱団」

- 「第18回あらかわお弁当レシピコンテスト」において、以下の成績を収めました。

審査結果	学年	氏名	お弁当のタイトル
教育委員会賞	3	高木 麗鳳	備蓄米をおいしく炊いて食べるカラフルそぼろ弁当
佳作	1	清水 朝陽	暑さに負けないサッカー弁当
佳作	2	遠藤 智喜	夏をのりきり弁当
佳作	2	羽佐田 依吹	苦手を克服・私の成長弁当
佳作	2	眞田 裕太	お母さんのために作った弁当
佳作	2	遠矢 優音	わくわく弁当
佳作	3	戸田 和	夏バテ予防・母への彩り愛情弁当
佳作	3	関 碧乃	スパイスで夏を乗り切る彩りエスニック弁当
佳作	3	長尾 怜武	ある物弁当

- 「第19回あらかわ小論文コンテスト」において、以下の成績を収めました。

審査結果	学年	氏名	題名
佳作	1	吉川 煌晟	「戦後八十年に思う」
佳作	3	丸山 心暖	ペットを飼うということ
佳作	3	木下 洋希	失敗をどうするか